

Book Guide で紹介した本は、新刊として菅生・蔵敷子ども文化センターに配架されます。

本の真ん中に大きな壁があります。こっちに住む人は、あっちにはこわい人食い鬼がいて危険だと思っ込んでいます・・・見たこともないけれど・・・物語は意外な展開をはじめます。安全だと思っ込んでいた、こっちに徐々に水が増え始めて、あわや溺れそうになったとき、助けてくれたのは・・・先入観にとらわれず、お互いを知ることの大切さを、少ない言葉で語りかけている一冊です。また、裏表紙には「かべを越える勇氣」の言葉が添えられています。

NPO あかい屋根広報紙  
発行: 特定非営利活動法人 あかい屋根 ひまわり編集部 044-976-0444  
**ひまわり**  
第 530 号  
2020/10/1

← 一歩前へ ← **子ども文化センターの「日常」を取り戻そう**

**感染予防はしっかりとしながら可能な限り**



子どもたちの我慢はいまだに続き、ストレスはたまる一方。子ども文化センターも6月から再開したものの「片肺飛行」の状態が続き、3密を避けるために「ダメダメ事項」が沢山あって、子どもたちに窮屈感を強いてしまっています。

もちろん、感染予防にはみんなで協力し合うことは当たり前で、その中に「避けなくてはならないこと」があることは職員も承知しています。しかし一方、頑張っている子どもたちに一刻も早く日常を取り戻してあげることも重要な役割です。

感染予防を徹底しながらも、できなかったことを「やれるようにする」工夫と努力が求められています。そこで、8月末から9月中旬にかけて職員で「子ども文化センター再生プロジェクト」を立ち上げ、菅生・蔵敷の年間計画の中で中止している全ての事業の見直しを行いました。それも、どうやれば実施可能かとの工夫をして、できるだけ多くのイベントの復活を考えました。

毎年実施していた「おもちゃつき大会」は、食するまでに多くの人の手が入り、どう考えても自粛対象です。しかし、食が伴わない「星を見る会」は、や

り方次第で実施は可能です。蔵敷は、敷地が狭いため子どもたちが思い切って体を動かせる場へと誘う取り組みとして「ミニミニ遠足」を実施する方向で考えています。また、子どもたちが大好きな「おやつ作り」は、共同で刻んだり、生地をこねたりしていましたが、最初から最後まで一人で完結できるようにメニューで、さらに道具を使いまわさないですむものを考えて11月から実施する方向です。幼児対象のイベントも、10月から十分に感染予防を意識しながら菅生は「がおがおらんど」を復活、蔵敷は新たに「よちよちっこひろば」を実施します。さらに、菅生で実施している野外活動を中心とした「ONEぱーく」も、リーダーとの遊びを中心に復活させていく方向で検討しています。

自粛を継続するものとして、駄菓子屋さんを密を回避することが難しく、子どもたちでシェアしたり、濃密な空間で飲食したりすることが予想されるため、もう少し様子を見ることとしました。

「コロナだから仕方がない」部分はどうしてもありますが、「コロナだってできる」ものを一つずつ積み重ね、日常を取り戻してまいります。

なが **「鬼ごっこ」の現代的変貌** い **編集後記 88**

◆センターの庭で「バスケット」だ、「サッカー」だと、とかく道具を使っでの遊びが目立つ中、久々にシンプルな昔ながらの遊び「おにごっこ」が始まった。「〇〇君は足が速く、彼が鬼になるとすぐに皆つかまっちゃったけ」「××君はかけっこが苦手だったから適当につかまってあげたっけ」「あいつら元気かな？」と思っ出していると、「塾の時間だから先に帰る」と鬼役が帰ってしまった。「えっ！どうすんの？」と見ていたら、ほかの子たちは「別に」とばかり何のブーイングもなく「ジャーね」「さよなら」と手を振る。

◆昔は、「鬼の役の子は抜けられない」という暗黙の決まりごとがあった。もし、そのようなことをしようものなら、みんなから「ずるいぞ！」とブーイングがおき、それでも強行しようものなら次回からは仲間には入れてもらえなくなったものだ。それなのに、今はなんと平和的に「抜けても仕方がない」と許容されるようになったのだ。

◆この「鬼ごっこ」はもはや成立しないだろうと、さらに見ていると、「じゃあ、僕が鬼ね」と、さらに平和的に誰かが変わって名乗りを上げ、続行されていく。そのうち、一人抜け、二人抜け・・・自然に誰かが「もうやめよう」と言い出して鬼ごっこは一巻の終わりとなった。

◆なんと平和な鬼ごっことなったものだろう。昔の遊びには、参加する「権利」を得るために、途中で放棄

することは許されないという「義務」が生じていたのに、今やその「義務」はなくなり、嫌になればいつでも辞められる「権利」が相互に保障されて遊びが成立しているのだ。よく解釈すれば「民主的」と言えば、実に民主的になったものだ。

◆誰かが都合悪くなれば自由にドロウすることができ、その役割を担うことができるものが自発的に買っ出て、鬼ごっこという機能を存続させることができている。ドロウする者を、止めることも、追うこともない。実に平和的で大人社会でも見習わなくてはならないと思っし、子どもたちが大人になった時に、こうした論理が社会を変革させていく原動力になってほしいとも思っ。

◆だが一方、古い人間から言わせれば「義務の放棄」が簡単に容認されていいのかという疑問も拭い去れない。人間社会での一人一人が行動をおこすにあたり、社会全体の秩序と利益が守られるべく「義務」が生じると思っているからだ。要するに、歩く時も他人の動きに気をつけたり、騒音に気をつけたりと日常生活を相互に円満に過ごすための「義務」はあるのではないかと思っのだ。いやいや、鬼ごっこが七面倒な話になってしまった。「遊び」なのだから楽しければそれでいいのだが、ここから新しい秩序が生まれるかもしれないと思っついつい理屈をこねくり回してしまった・・・。 統括館長 針山直幸

# こども文化センターは 地域の宝④



開館式でバザーの30万円を市に寄贈

## 今では考えられない読書欲

開館にあたって、市による児童図書への配備がないと知って、住民たちがバザーを開催して30万円を寄贈して揃えた本は約3000冊。その本は、毎週水曜日に「図書貸出の日」として、ボランティアのお母さん方が20名ほどで「読書クラブ」を結成して本の貸し出しに交替であってました。一日に本を借りに来る子どもは100名近く訪れ、一人2冊を借りていきました。3000冊あっても200冊はいつも借りられている状況で、本棚には隙間があるのが当然でした。一日にボランティアのお母さんは4～5人のローテーションで本の貸し出しを請け負っていましたが、子どもたちが大勢来館した日はそれでも手が足りず、職員も貸出作業をお手伝いしていました。

こんなにも子どもたちが本を目当てに殺到したのは、菅生地域は開発に次ぐ開発で子どもたちが増えて、菅生小学校は飽和状態となっていて運動場にプレハブ校舎が乱立し、学校図書室に入れるのは5・6年生だけで満足に本を借りることができなかったからです。

もう一つ、テレビは普及していたものの、子ども向けアニメ、「宇宙戦艦ヤマト」「ドラえもん」「日本昔ばなし」などが台頭し始める前後で、まだまだ子どもたちは本の中でイメージを膨らま

す喜びを知っていたのかもしれませんが。

## おはなしキャラバン

当時、神奈川県がやっていた事業に「おはなしキャラバン」がありました。県が大型バスを運行し、地域に乗り付け、バスの中で読み聞かせや、人形劇が上演され、子どもたちをお話の世界に引き込む事業でした。上演するのは県が委託した絵本を研究するプロの「キャラバン隊」。

読書クラブのお母さんたちは、その「おはなしキャラバン」を申し込み、抽選に当たり、菅生にやってくることになりました。子どもたちの目の輝きは言うに及びません。日常的にも子どもたちに読み聞かせをしていければと、読書クラブのお母さんたちは考えました。そこで、キャラバン隊主宰者の石竹光江先生を何回も講師として招聘したのです。石竹先生の「まずはやってみる」との励ましに、お母さんたちは本の貸し出しと共に「読み聞かせグループ」を結成し、貸し出しの時間帯に「おはなしひろば」を設けて、当番制でのお話会へと発展しました。



伊藤忠からの助成金の授与式

## 伊藤忠から助成金を受ける

その意気込みに感動した石竹先生は、「キャラバン隊」もかつて助成を受けた伊藤忠記念財団に読書クラブを推薦して下さいました。そのおかげで、全国で2団体の内の1団体として100万円をいただけることになりました。

昭和50年代の100万円の価値は、貴重な金額でした。それにより、図書の充実が図られたことはもちろん、おはなし会をさらに充実させることができました。人形劇の舞台が作られ、背景の映し出しや影絵ができるように、当時はまだPC等は普

# 10月のおしらせ

新型コロナの感染状況で、変更・中止もあります

## 菅生こども文化センター

☎976-0444

7・14・21・28日(水) 14:30~16:30

あそべば 誰でも 無料

7日 フライングディスク

14日 でっかいシャボン玉を作ろう

21日 すごろくおにごっこ

28日 ドッチボール大会

## agein

16日(金) 10:45~11:30

ががおおらんど ミニ遊園地

未就学児とその保護者 無料



18日(日) 11:00~13:00

なぞときアドベンチャー宮前区子ども会連合会共催事業

とんもり谷戸集合・生田緑地解散 参加受付可

## agein

24日(土) 13:00~16:00

ONEぱーく リーダーを探せ! in 菅生緑地

3~6年 25名 150円 申込可 19日

※10月の工作 アマビエづくりコロナをやっつけろ

誰でも無料 やりたいときにスタッフに言ってください。



## 蔵敷こども文化センター

☎977-2577

7・14・21・28日(水) 14:30~16:30

ぞうさんのポケット 誰でも 無料

7日 天下大会

14日 アタック25

21日 忍者クラブ

28日 ホーンテッドコブン



18日(日) 11:00~13:00

なぞときアドベンチャー宮前区子ども会連合会共催事業

とんもり谷戸集合・生田緑地解散 参加受付可

## new

23日(金) 10:30~11:30

よちよちっこひろば ハロウィングゲームラリー

未就学児とその保護者 無料

## new

※10月のいつでも工作 ぞうしきクラフト

ボンボンモンスター

誰でも無料 やりたいときにスタッフに言ってください。



及前だったのでオーバーヘッドプロジェクターが導入され、最新鋭の設備を手にすることができたのです。おはなし会はさらなる進化を遂げます。人形劇に特化したグループの誕生(現在の「ひまわり人形劇グループ」)、そして子どもたちの影絵グループが誕生することとなりました。

当時、図書館は分区前で溝口の高津図書館しかなく、その機能を補完して地域の子どもの文化の基盤となったことは疑う余地もありません。



OHPを使って子ども影絵グループ誕生